

隨想

●

・シアトル桜祭り 親善公演を終えて

思いをひとつに 吉武 順子

△神戸女声合唱団▽



この一年間、私達にとつてシアトルと言う地名は特別の響きをもつていた。そのシアトルへ今飛び立とうとしている。この期に及んで、また留守中の家が気にかかる今さら心配するのはよそう。母親がいなくても、なる様になるさ!! 今回の神戸女声合唱団訪米公演表として、頑張って来るぞ、と自分にハッパをかける。

今回の神戸女声合唱団訪米公演は、作曲家服部公一先生が、ワシントン大学の客員教授をされてお

り、その推薦でシアトルの桜祭り委員会より招待を受けた。昼食など、いつも後まわしの練習は、主婦にとって厳しいものだったが、小橋先生の情熱と気魄に励まされ來た。シアトルは在留邦人や二世三世の多い街で、英語も分かり易かった。とは言うものの、あちらで珍妙な英語が飛び出すや

ら、愛想笑いで誤魔化すやら。シアトルの人々は、非常にんなつこく私は心のこもった歓迎を受けた。総領事公邸でのレセプションで歌っている様子は、その夜のTVニュースで放映された。さて、第一回目の公演。場所は三千人収容の本格的なオペラも上演されるオペラハウス。割り当ての練習時間は少ない。集合間際に、ホテルのエレベーターが故障!! 皆必死で

九階、十一階へと非常階段を駆け登る。公演の内容は、四部編成で



カット/野田飲吾

二十曲。小橋先生の御身体の調子が少し悪く、それをおしての指揮に、私達は一層心を合わせて、先生の気持に応えようとタクトを見つめた。

会場は、やはり在留邦人、二世三世の方々が多く、三部の日本のわらべ唄が一番喜ばれた。錢太鼓を持ち、お手玉をしながらの歌に、伝わって来る。時間に追われ、二部に身につけるケープを、一部の時から密かにパンティーストッキン

グに忍ばせたり、胸にゆとりのある人は、そこへ納めたり苦心惨憺。舞台裏で、ゴソゴソとあらぬ所からケープを取り出す滑稽な様子も笑う所ではない。決して自信満々で臨んだ舞台ではなかった。しかし、歌う者すべてが思いをひと

にして心をこめた時、それはすばらしい響きとなる。タクトを振る先生の顔が一瞬輝く。録音しながら聞いて下さる姿もあった。一斉に星条旗を掲げ、歌いながら退場



シアトルのオペラハウスの前で

する時、会場の人々の日本への親愛の気持、祖国への熱い思いが拍手に乗って私達に迫った。良かつた、来て良かった、私達の目的は達せられたと、舞台の袖で尚も歌い続けながら、皆、目と目で頷き合つた。「日本は良いです」と言つた途端、涙ぐんでしまつた人達。あの人々にとっての日本は、スピードパークで見た、太陽と大地の栄養をたっぷり吸い込んだ見事な八重桜のように、豊かで憧れに満ちたものに違ひない。

唯、アメリカの舞台で歌つたと言う経験だけではなく、それぞれがいろいろな思いを抱いて帰国した。十日間、主婦である事も、母である事も忘れて、まるで修学旅行の女学生そのものだった。

★帰朝記念リサイタル

6月13日(土) 神戸文化ホール PM2:4

むな
虚しきかな
野田 欽吾

△洋画家▽

グッド・モーニング、グッド・アフタヌーン、笑みをたたえて軽く挨拶を交わす。ホテルの廊下で、エレベーターの中でも、お互い見知らぬ者同士が、異国の地で言葉を交わし合う。

人間疎外について論議が盛んでいろいろ取沙汰されている日本か

ら旅してみて、改めて国民性というものを身をもつて知らされた。

お互い日本人同士でありながら、

空港からのバスの中、ホテルのロビー、廊下、食堂、ありとあらゆ

る場で接しながら気軽に挨拶が交わさない。異国で同じ国民と逢つた途端、涙ぐんでしまつた人達。

あの人々にとっての日本は、スピードパークで見た、太陽と大地の栄養をたっぷり吸い込んだ見事な八重桜のように、豊かで憧れに満ちたものに違ひない。

唯、アメリカの舞台で歌つたと

いう経験だけではなく、それぞれがいろいろな思いを抱いて帰国した。十日間、主婦である事も、母である事も忘れて、まるで修学旅行の女学生そのものだった。

★帰朝記念リサイタル

6月13日(土) 神戸文化ホール PM2:4



まん中が野田さんご夫妻

外国人と出逢った場合、言語の障害があり、挨拶をかわすことは、確かにむずかしいことだが、同じ日本人同士が挨拶を交わすことが

ホーリーのルームメイド、食堂のウェーラー、ドアマン

アフタヌーン、笑みをたたえて軽く挨拶を交わす。ホテルの廊下で、エレベーターの中でも、お互い見知らぬ者同士が、異国の地で言葉を交わし合う。

人間疎外について論議が盛んでいろいろ取沙汰されている日本か

できないというは何としても理解に苦しむ。学校教育、家庭での

駆けに原因があるのだろうか。

現実に空港への途中、ホテルか

ら次のホテルへ向かい、かなりの

時間待たされた。便乗して来た若

い日本女性(三人組)が乗りこん

で来ながら、朝の挨拶すらしない

のに驚かされた。ましてや私を長

時間待たせたことに対する詫びの

言葉など聞ける筈もなかつたし、

又それを期待する方が無理だった

かも知れない。

それに反し、プールサイドでの

アメリカの少年、オーストラリア

人が、スケッチしている私に気軽に

からのスケジュールなどなど。そ

んな彼等が、集団から離れ、個と

なった瞬間、顔がこわばり、口を

堅く閉ざしてしまう。これは一体

どういうことなんだろう。

外国人と出逢った場合、言語の

障害があり、挨拶をかわすことは、

確かにむずかしいことだが、同じ

日本人同士が挨拶を交わすことが

できない。

ホテルのルームメイド、食堂の

ウェーラー、ドアマン

アフタヌーン、笑みをたたえて軽

く挨拶を交わす。ホテルの廊下で、

エレベーターの中でも、お互い見知

らぬ者同士が、異国の地で言葉を

交わし合う。

人間疎外について論議が盛んでいろいろ取沙汰されている日本か

気軽に挨拶できない、日本人全
てが基本的生活習慣が身について
いないとは言えないが、高度経済
成長、社会の機構、教育のひずみ
といったものが原因なのかも知れ
ない。年々海外渡航者が激増する
昨今、国際的感覚を身につけて、誰
にでも笑顔で接することのできる
國民になつてほしいものである。
この旅行で改めて日本人の一面を
客観的に見ることができたような
気がする。

魔芯想

太田タマコ

（タマコオリジナルフラワースタジオ主宰）



真っ黒な空、今打ち上げられた
花火のよう、化物の花一輪、ゆ
らり、ゆらりと漂っている。見え
ない糸で操られた花のような物体
ぐらり、と傾むいて、私を見降ろ
す。凄まじい！又、ぐらり！花とい
うより、巨大な花芯！感情をもつ
た花芯！魂の芯、ゆらりと漂い
ながら、その芯はぎらぎらと燃え
つづける。突然、色が飛ぶ！透明
だ！その長い長い茎をのばして、
果てしない闇の中に、静かに、ゆつ
くり昇りはじめた。花弁のような
透明の炎に、その身を委ねながら

あれは、確かに夢の中での出会い
でした。夢から覚めた一瞬、私は
床の中で茫然と、あの夢の光景を
想っていました。あの花芯は一体
何？え、とあれは、沈黙の花の
世界――

そう、あれはあの花！ いつか
私が造った花、あのけしの花にち
がいない。仕事場の天井に吊るさ
れて、私の頭上にいつもあるけし
の花、存在を忘れてしまった花、
その日、私は早速その花を下に降
ろして手にしました。

丁度十年前になります。造花の
可能性への挑戦として、花造りの
女達が、昔屋ルナホールで、「はな、
おんな、けし」一詩と造花の世界――
花の言葉を岸田今日子さんの朗誦
で、その心の動きを、モダンダン
スの人達に、もの云わぬ花のため
に、たくさんの人達によつて助け
られ実現した、造花が主演する舞
台創りをしました。

あらゆる女の感情、不安、誘惑
気まぐれ、ナルシズム、妖艶、純
心無垢等、数々な女の内面をけし
の花に投影させて、女の化身とし
てけしの花を造りました。あれか
らずっと私の頭上で、ほこりにま
みれて吊された花は、あの時の一
輪のけしの花でした。十年の年月
の中で、あの頃は、あんなに美し
かったのに、今は見る影もなく色
褪せてしまった花、かすかにけし

の形をとどめた造花、みたくない
ものをみた哀しさ。だがその萎え
た花びらの中心の奥の花芯！不思
議なぐらいに妖しい。ベッドで造
つたおしへはところどころぬけ落
ちて、虫が食つたようなのに、そ
の表情は、十年前より、もっと複
雑に色づき、形を得て妖まめかし
い、まるで、魔の精が宿つたとし
か思えない表情をしていました。
六月二十日夜昔屋ルナホールで
「マイム造花の世界」を、一回だ
け公演いたします。あの夢から三
年間、頭上のけしを視めつづけて、
想いをめぐらして、「魔芯想」なる
舞台を花造り達がやることになり
ました。私たちの造る花、自ら語
ることも、動くことも出来ない花
達のために、今再び、造花のもつ
虚も実も、醜も美もさらけ出すこ
とによって、造花がはじめて命を
得、魂有るはなとして存在するの
ではないかと思えるのです。

マイム、花のマイム、花とヨネ
ヤママコとの絡み、魔精として
のママコの感性のマイム、この舞
台のためママコからイメージした
情念の芯がどんなふうに妖氣漂う
舞台を繰り広げてくれるのか、今
は、ただ、主演する花造り達が命
をかけてはなをつくりつづける、
それのみなのです。

★「魔芯想」マイム・造花の世界
6月20日（土）6・30PM 舊屋ルナホール
出演／ヨネヤママコ・藤井傳三 2000円

一冊の本との 確かな出会い



紀伊國屋書店

梅 田 店・大阪市北区芝田1-1-3
阪急三番街 ☎ (372) 5821

グランドピ店・大阪市北区角田8-47
阪急グランドビル ☎ (315) 8970

小 樽/札 幌/新 渴/川 越
東 京/船 橋/岡 山/広 島
松 山/福 岡/熊 本
サンフランシスコ/ロサンゼルス

うべにふれあいのディテールを

心の通う店創り



神戸日建

商業施設全般・調査企画・店舗装備・設計施工

株式会社 神戸日建

本社(設計室) 神戸市中央区御幸通3丁目2-20
PHONE (078) 252-1321(代)

神戸事業部 PHONE (078) 251-3525(代)
名古屋事業部 PHONE (052) 561-3618
東京事業部 PHONE (03) 278-1369

●ローン・リースの開店資金のご相談を承ります。

「真珠の街神戸」を考える

高橋 洋三（「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議・高橋兄弟商会常務）

神戸は真珠の街です。

一般の人々は、真珠といえばすぐに伊勢志摩を連想します。ところが、真珠の大部分は神戸の真珠業者によって扱われているのです。

「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議は、この事実を広く人々に知つてもらおう、世界に知られた神戸の真珠業者もファッショングループです。

真珠は日本の特産物として、世界中に送り出されています。その八割が神戸から輸出されているのですから、文字通り神戸は世界の商業界若手を中心として結成された

都市神戸をささえる一本の柱となるよう積極的に協力しよう、と

商業界若手を中心として結成された神戸の真珠業者もファッショングループです。



シンボルマークは増田幸一氏（中央）によって決定

真珠の中心地です。その意味からも、「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議は、PEARL CITY KOBEを掲げて活動

ロジックで開催されています。

日本国内だけを対象として宣言され

ているのであります。我々真珠業者がこの街にいたのかと、改めて驚かれる違いありません。

ファッショングループ神戸 これは

日本国内だけを対象として宣言さ

れてゐるのであります。我々真珠業者は明治の開港以来、日本の真

珠を海の向うに送り続けてきました。これまで、一般の人々になじみのなかつた神戸の真珠も、今、

神戸の地場産業として新しい段階に進もうとしているのです。これ

まで我々業界のつちかつてきた諸

外国との関係が、ファッショングル

ープ神戸を世界に紹介する一つの手

段とならないでしようか。また、

ライフスタイルそのものを対象と

する神戸ファッショングループの良さを、

真珠で表現できないものでしよう

か。我々は、その目を常に前に向

け、そして單に一つの業界にとら

われない巾広い活動を今後共、考

えてゆきたいのです。

パールシティーゴウベ万歳。

■「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議／中央区山本通2丁目2-2-302号 電話078-242-0593

苦楽園とは

竹中 郁 ▲詩人・絵も▼

国鉄の芦屋駅の前を走るバスで「苦楽園」行きということがある。それに乗ると終点は小さい谷の橋のたもとで、その橋は「三笑橋」という名だ。

ここらは大正十年ごろに土地開発された。電鉄沿線に土地経営がはやったが、その波の一つだ。となりの「甲陽園」や東隣りの「香櫞園」遠く京

阪電鉄の「香里園」なども、みな兄弟なみの出生だったが、その命名ぶりを見くらべると、どうも「三笑」といい「苦楽」といい、ほかのが甘いばかりの客引き性なのに、この二つは渋い。

「三笑」という中国の故事は、詩人陶淵明を送つてた法師がつい話に夢中になつて、渡るつもりのなかつた虎渓という谷をうつかり渡つた。そこで三人が大笑いをしたのに由来する。絵にも描かれることが多く、大観や閑雪も手がけた。その虎渓三笑からこの橋名はもらつたのだ。

その苦楽園の売出し広告文に、スイスのローザンヌに似ているとかと、与謝野晶子夫妻が云つていたのもおぼえている。

とにかく今日走つても、あの東六甲山の斜面は

いい眺めで、ひろびろと心地よい。後に六麓荘といふ一廓がくつついた形でできて、ゆったりとした住宅地の佳景をつくつた。苦楽園がはじめラジューム温泉などといって浴場を建てたあたりは（これは三笑橋から東へ少々のところ）様変りして大正時代の佛がない。

とにかく一回だけこの温泉の湯につかつた記憶がある。大きな浴槽をたつた一人で占めて泳いだ記憶がある。

「苦楽」といふ三笑といい、一たい誰が命名したのですか」とわが近隣の中村孝子さんがその土地会社を経営した人の娘さんときいて尋ねた。「あそこには下村海南が住んでましたね、海南が命名したのでしょうか」。この質問には立ちどころに夫人は「いいえ、大隈重信が開業式に立寄つて、そのとき附けたとかきいています」

大隈重信は早大の創立者、総理大臣も務めて、当時は侯爵だった。まあ明治大正にわたつての政界の大物。しかし、そんなに漢学素養があつたとも思えないのに、ちょっとふしぎな気もする。



この土地の開拓者中村伊三郎は阪急の小林一三と義兄弟の誓いをした仲で、似たようなタイプの事業家だったらしい。中村夫人の努力で、じつはこの命名者は大隈ではなくて、時の宮内大臣の土方久元だと訂正の報告があった。この土方の孫が土方与志といつて、新劇運動のメッカの築地小劇場の創立者。欧州やロシアの新劇の演出を自らも学んできた人だった。

私が一度だけ入浴したラジューム温泉は、三笑橋の東方向の川下に当るのだが、今日さぐりに行つてみても手掛りになるものはない。

六甲山塊の風景は人家が殖えこそすれ、その骨格は数十年前と変りはない。甲陽園に映画撮影所があつたり、苦楽園に温泉があつたり、そんな人為の末端だけが甚しく変る。その温泉の脱衣場で、

はじめて、自動秤の目盛りを読んで、便利なものができたなあと感心したのを覚えている。それまでの旧式のでは、いちいち鉄の分銅を受け皿へのせてみて自分で秤るか、誰かに秤つてもらうかしなければならなかつた。何貫何十匁あつたか、それはもう忘れてしまつたが、脱衣場の外庭に小さい噴水がちよろちよろと吹き上つていたのをおぼえている。

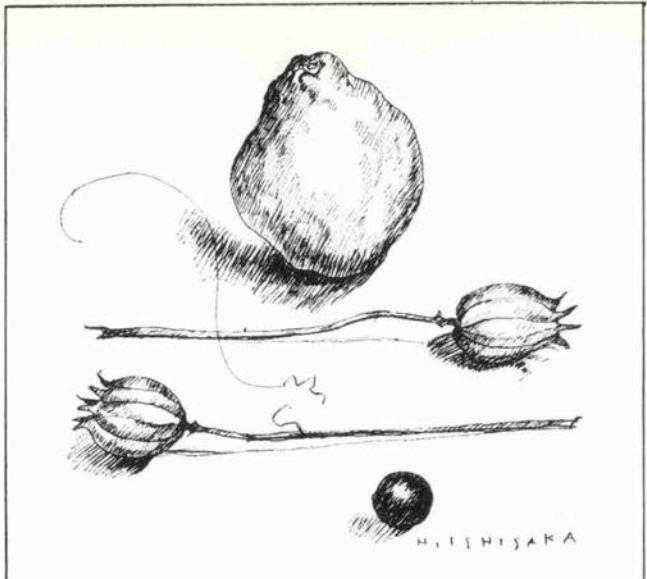
自動秤の方は大そうな便利で印象的だったのに案外うすれてしまつた。外の噴水のみつともないのが印象にのこつたのだ。妙なことになるものだ。ついでに記しておくが関東大震災で東京の出版力が低下したとき、大阪でプラトン社というのが「苦楽」という娯楽文芸誌を発出した。立派な本だった。但し苦楽園とは係りなしだったと思う。

今、甲南大学の背後の山に、大谷光瑞がインドみやげのスタイルで堂々たる山荘をもつっていた。「三樂莊」と云つた。これを西の方にかえていたことも「苦楽園」という名が生れた理由の一つだろう。



あじさいの咲く町

多田 知満子
絵 / 石阪 春生



港町の初夏の風すべての物象から、すこしずつ、重さとけだるさとを吹きとばす。

山のみどりの斜面をざわざわと吹きおろし、町の通りをジグザグと遊びながら吹きぬけて、波止場へ、海へ、そして沖へと去ってゆく風。この季節、しかしもうひとむかしも前に、わたしあんなふうにうたつたものだ。

「夏のはじめの唄」と題する詩の一節である。そう、この季節、街を行く女のかかとがかるやかになる。男のうなじがみずみずしくなる。老人の白髪さえも新鮮な風に光る。

そして「白い波止場に市が立つ」ポートピア、ポートピアと、街に歌が流れ、電車もタクシーも、みんなあの青いポートピアのシンボルマークを貼りつけて、なぜかうきうきした表情だ。

ショーウィンドウのTシャツや百円ライターにまで、あのマークがうれしそうについていて、それをつまみあげてうれしそうに買っていくのがいて、それをまたにやにやと見てているのがいたりする。

光る鳩
キリキリ舞いするキリスト
白い波止場に市が立つ
夢が泡立つ
風が立つ

いつもは西日本の、ちょっとおしゃれな一地方都市にすぎないけれど、この博覧会の会期中は、日本中の（オーバーに言うと世界の）視線をあつめる祭の場です。さあいらっしゃい、見てください。——こんなふうな子供らしい晴れがましさで、町中がそわそわしている。

といつても、本当にそわそわしているのはポートピアの関係者と、地元のマスコミと、おしよせる見物客たちが落していく金に関心のある商店街や交通機関ぐらいいもので、大多数の市民は、ああ、なんだかやつてますな、という表情。例によつてインテリほどしらけている傾向がある。

多少興味はあっても、神戸に住んでいるとあまり身近すぎ、いつでも行けるという安心感で、そこのうちに、とか、すいているとき、とか思つてゐる間に、とうとう会期が終つてしまふ、というような人も多いのではないかろうか。

かく言うわたしもまだ一度ものぞいていない。

会期前に一度、プレビュートやらでテーマ館だけは見せていただいたが、そのうち、東京の親類や友人が来たら案内することになるだろうと思つてゐる。

とかくするうちに梅雨にさしかかり、あじさいの咲く頃になると、初夏の軽快さが少しめり気を帶びて、街がはずまなくなる。しかし六甲山系の風化した花崗岩が砂になり土となつたこの町は、もともと土質が白っぽいので、黒土や赤土のもつ粘着性のうつとうしさがない。

あじさいは神戸を代表する花で、六甲山にはことみごとなあじさいの群落がある。山のこととて花期はひと月おくれるけれども。

わたしの家庭も土質が合つとみえて、さし木にしておけばいくらでもふえる。場所が限られるからふやさないだけである。

花は緑がかつた淡黄色から、やがてうつすらと紫に染めあげられる。それから盛りを過ぎると紫が赤味を増し、頬唐期の色調となる。楠玉のような形をして、大きいのは子供の頭ほどもあるけれども、たくさん小さな花の集まりだから、巨大でも繊細で、もろい柔らかな美しさがある。

しとしと降る雨に濡れて、重たげに露をふくんで咲いているところ、なんともいえぬ風情がある。ことにたそがれどきなど、内部から蒼白い光に照らされている感じで、わたしはいつも人魂を連想してしまう。生者の世界に心ひかれて、地上をさまよつている人魂……。

それというのも、わたしの母が亡くなつたのはあじさいの咲く季節であった。

東京住まいの老母は、年に一度、神戸へきてわたしの家に滞在するのをたのみにしていた。

健在ならばきっと今頃は神戸にきていて、わたしは、ちよつとめんどうだな、と思ひながら母をポートピアへ連れてついているだろう。母はテーマ館に出てゐる娘の詩を、なんだかよくわからなければもよろこんでながめるだろう。

その母はもういない。老人が消えうせ、若者が中年になり、また新しい若者たちが潤歩する街を、ポートピア、ポートピアのしらべが流れ、あじさいの薔がまたみずみずしくふくらんで行く。

'81 Fresh Summer



〈本店〉ベル・ジュバンスの専門店
神戸・三宮神社北東三上ビル2F TEL.331-8894・4917

〈芦屋支店〉
芦屋・阪神芦屋駅山側 TEL.0797-22-4067

お貸衣裳部 東京初代遠藤波津子直流
花嫁衣裳サロン 畑尾美久子の店
本店美容室エリザベスの上 TEL 331-3258

専属結婚式場 生田神社会館/プラン・ドゥ・プラン/阪急六甲ホテル/蘇州園他

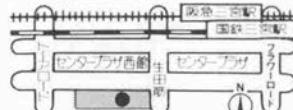
株式会社 美容室 エリザベス

ファッションに
“贅”を尽くすのは素敵。
でも、
いつも美しく着ている
人はもっと素敵。



技術に贅を尽くしファッションを
常に美しく——ニシジマ

- 型くずれの防止
- 素材感の回復
- カレテの作成
- お客さまの好みに合せた仕上
- ファッションクリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
グレイス神戸 B1 (078) 332-2440

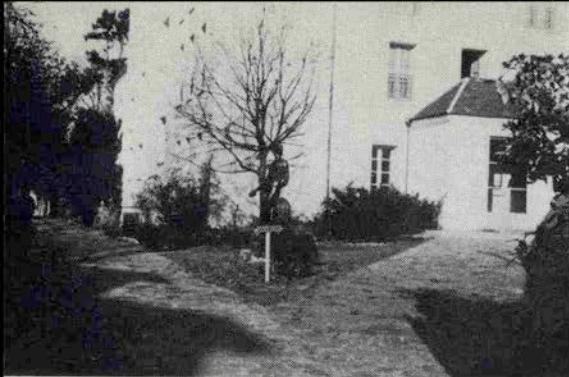
△その22△

サン・ジエルマン・アン・レ^イモーリス・ドニ美術館

池上 忠治

忠治△神戸大学助教授

モーリス・ドニ美術館正面入口



パリの西郊にあるサン・ジエルマン・アン・レ^イは、人口四万たらずの小さな町でしかない。だが第二帝政から第三共和制にかけてこの小さな町が栄華の時期を迎えたことは、町の中心をなす城館の歴史をひもとけば簡単にわかることである。このシャト^ーは今日フランス考古博物館となつていて、古代ガリアの多くの発掘品が並べられている。

昨年の秋、シャト^ーから歩いて十分ほどのところにモーリス・ドニ美術館が公開された。ドニとドニ

はナビ派の画家のひとりでこの町の小修道院を住居として三十年に及ぶ後半生を送った。言うまでもなくナビ派はゴーガンの強い影響のもとに世紀末のパリに結成された画家グループで、ボナールやヴュイアール、マイヨールなどもその一員だった。彼らの画業が「アール・ヌヴォ」とも深くかかわることは、この正月に兵庫県立近代美術館で開かれた「ジャポニスムとアール・ヌヴォ展」によつても良く知られる。

たまたま私は昨年十一月に十数年ぶりでサン・ジエルマン・アン・レ^イを再訪し、初めてドニ美術館を見た。屋根裏も含めて三階建ての小修道院は立派な美術館となっており、ドニの油絵やステンドグラス、ポスターや版画などはもとより、他の画家たちの作品も多

ビュッサーとはこの町と浅からぬ因縁のある芸術家で、二人をまとめて一つの美術館にする予定だということを私は以前から聞いていた。結局は別々の施設ができたわけでいずれもフランスの近代芸術に親しむ者にとって有難い場所だ。ドニはナビ派の画家のひとりでこの町の小修道院を住居として三十年に及ぶ後半生を送った。言うまでもなくナビ派はゴーガンの強い影響のもとに世紀末のパリに結成された画家グループで、ボナールやヴュイアール、マイヨールなどもその一員だった。彼らの画業が「アール・ヌヴォ」とも深くかかわることは、この正月に兵庫県立近代美術館で開かれた「ジャポニスムとアール・ヌヴォ展」によつても良く知られる。

く並べられている。ゴーガン、ペルナール、ボナール等々である。屋根裏にドニの多くの版画が並んでおり、それらを印刷したプレス機や書斎机まで置いてあるのは、いかにも個人美術館ならではのことで、画家の生前をしのぶのに何よりのよがとなる。つまり、この美術館はドニのみならずナビ派やアール・ヌヴォにも密接な関係のある設立物で、パリ市内にもこうした場所がないだけに、より一層に貴重な存在として感じられる。ドニ美術館の裏庭からは、はるかにセーヌ河が見える。サン・ジエルマン・アン・レ^イのシャト^ーのテラスから見れば、セーヌはすぐ眼下に見える。遠くにはパリ西北部が望まれ、近ごろ高層建築が次々と立つのが目ざわりでなくもない。だが、この町の良さはシャト^ーや美術館にも確かにありはあるが、実はレストランにもある。シャト^ーへの入口の真前にあつて入口の目立たない「ウエールズ公式（フランス・ド・ギャラ）」、ここは定食が実においしくて、わずか千五百円だった。店のムードも良く、サービスもゆきとどいていた。もつとも、私がこの店に好感をもつたのは昨年のボジョレの新酒が本当にうまくて安かつたせいなのかもしれない。

KOBE
THE CAPITAL
OF PEARLS

フレッシュな感覚で 真珠業界に新風を

出席者

田嶠

田崎俊作（森真珠株式会社社長）
（日本真珠振興会広報委員長）

木下 章夫
(株式会社木下真珠社長)
高橋 洋三
(合名会社木下高橋兄弟商會會長)
近澤 真
(金村真珠株式会社取締役)

章夫
〔株式会社木下真珠社長〕
洋三
〔合名会社高橋兄弟商店常務
「真珠の街神戸」を考えるプロジェクト会議代表
真
〔北村真珠株式会社取締役〕

神戸の真珠は意外に知られていない
今年は神戸で、いろいろ催しが
まず神戸と真珠の結びつきと、業界
らお話し願います。

——今年は神戸で、いろいろ催しが開かれる訳ですが、まず神戸と真珠の結びつきと、業界の現況ということからお話し願います。

田崎：神戸は、真珠業界にとって、立地条件としては一番取り引きにふさわしい場所であったのは事実ですね。ところが、戦後の非常な好景気のため、他産業との競争というか、ふれあいが少なくて、真珠業界だけ孤立して独占的になってしまふような体質が生まれてきていたような気がします。従つて、神戸の真珠業界ということを全く考えず、ただ業界のための真珠屋というだけの視点

その後、昭和40年代の不況を経験し、今のように価値観が多様化し、商品が氾濫してきた結果、他の商品との競合とか、宣伝の時代ということを新たに認識しなければ、真珠業自体がやっていけないという意見が、期せずして「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチームと

中村 地場産業であるといつても、一般にはそういう認識はまだまだ薄いですね。輸出に便利な港があり、真珠の養殖が盛んな伊勢、四国、九州の三角地帯の中には現在は、日本の真珠の80%が神戸で加工されています。

従つて、神戸と真珠は切り離せない。それが一般に知られていないのは業界のPR不足もあったのですが、今、若手のプロジェクトチームによってキャンペーンが進められており、折りしも全国の眼が神戸に集まっている時です。この場を通じてPRを強めていきたいですね。

木下 戰前は市場として確定されたものがない時代で、市場視野が広まってきたのはここ25年ぐらいですね。その間の歴史の変遷につれて、業界内の人間も変わってきています。今度のファッショントライブシアターの出展だとか、ポートピア'81での催しとかいう行事が、一つの出発点です。ポートピア'81に集まる方々に本当に真珠の街だという認識を新たにしていただくというねらいです。

戦前の真珠に対する考え方はあくまでも宝石という価値で、ファッショントリビュートと結びついたのは最近だと思います。ここにきて、みんなに抵抗なく受け入れられるようになつて、いろいろな企画に若い人が参加して、積極的に

に提案し行動してくれているというのが現状ですね。

若い力が業界の新しい推進力に

——「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチームの動きが活発なようですが、そのいきさと/or 内容はどういったことなのでしょうか。

高橋 話の初めは去年の春頃ですが、それでも萌芽的な状態としてはあつたと思うんです。神戸で真珠の仕事をしている若い人の間で、我々はその中にいるので当たり前に思つてはいるけど、一般の人は神戸の真珠をあまり知らないということが話題になつたんです。真珠は世界的にポピュラーなものとして広まつていて、現状では真珠そのもののプロモーションは真珠組合などがやつてますが、真珠に携わる者すべてが参加してのPR活動にはなつていません。真珠を他のダイヤや金銀製品と一緒に取り扱うのではなく、真珠そのもののPRをやりたい、それが最終的に真珠の値うちをより高めていくことにつながるんじやないか、それには商売の第一線にいる輸出業者や小売業者といった末端の人たちだけに任せきりにするのでなく、海の生産から始まり、世界の人々の手に渡



田崎 健作さん



森 隆さん



中村 友一さん

までの過程すべてを含めて真珠に携わる人はPRに参加すべきだというが我々の主張なんですね。

何故「パールシティ神戸」という看板を掲げたかというと、神戸なら、町ぐるみ、地場産業としてPRすることができますが、それと真珠は決して無縁ではない、ファンション都市神戸を支える一つの柱に真珠はなれるんじやないかということがもう一つの理由です。

そして「パールシティ神戸」を広めていく方法として具体的な提案をしてきたのですが、例えば、シンボルマークを作りたい、そのマークをいろんな形で展開したい、ポートピア81に催しをやりたい、従来 東京で行われていたデザインコンテストを神戸でやりたい、美人コンテストみたいなものをしたいなどがありました。パールシティ神戸を表に掲げた業界のためのPR活動を実現するための方法を我々が提案し、できるものは取り上げていただきという風な活動の方向で進んできた訳です。

近澤 意外に反響が早かったんですね。実際に一年足らずで「パールシティ神戸」という言葉が業界内に浸透してきたということは、神戸で真珠を扱う人がどこか潜在的にそういう気持を持つていたんじやないかと思うんです。プロジェクト会議のメンバーは、平均30才ぐらいでどちらかというと建て前論ばかり言えるような気楽な立場の者が多くて、こうなればいいとかこうすべきだという議論からスタートした訳ですが、実際にそれを主張して認められると、それを実現していかなければならぬ。それには全員が共同作業を行うことでムードを盛りあげていかなければならぬ。そんなことで、皆が割と積極的に参加し、高橋さんのもとに結束したという感じでいろんなことをやつてこれたのです。

田崎 業界に浸透するのが早かったというのは、丁度振興会 자체にもそういう宣伝活動をもつと活発にすべきだという気運がここ一年ほど非常に高まってきたから

ですね。だから、まさに渡りに船ということで、どんどん吸収され、実現の運びとなつたんですね。

長年、真珠を扱っていると、利益、損得というものがどうしても先に頭にあって純粹に業界を見つめることができないかと思うんです。それで、二代目的な疎くなつてきていたと思うんです。それで、二代目的な若いフレッシュな感覚を持った人が、こういう運動を起こしたということは、業界において大変意義のあることだと受けとめています。

中村 思い起こすと、今より10年前に当時30代だった我々が集まり、新しいエネルギーを業界に吹き込もうと神戸真珠親睦会を作った訳です。日本真珠振興会に加入するには制約もあり、若い人は業界の主流になかなか入れない。そこで親睦会を作り、一緒に勉強しようと呼びかけた訳です。これは10年かかってそれなりの成果を収めてきたと思いますが、10年を周期にさらに若い人が脱皮を図っているという感じです。若い人たちの活力、既成の団体では持てない勇気とバイタリティ、新しいインテリジェンスに期待しています。

木下 振興会というのは業界のリーダーシップで、そういう方たちの声と若い連中の考えがタイミングよく合つたんですね。そして現在は、真珠を何なく受け入れられるファンションに変わってきて、一般的の消費者の方にも盛りあがりが感じられるような時期になつてきているんじゃないですかね。若い人の場合、抵抗なくファンションと真珠が結びつけられ、ファンション＝神戸とか神戸＝真珠というようにスッスッと文字と文字が図式化されてしまうんですよ。

真珠のPR活動をもっと積極的に

——PR活動を行つていこうという皆さんのご意見ですが、やはり今までは真珠業界としてはPR不足だったんでしようか。

森 真珠の宣伝というのは、他業種から見るとはるかに少なくて、皆やらないかんといつても、何とか輸出を中

心に売り上げが確保できるものだから、それほど必要性に迫られてなかつたと思いますね。けれどもこの10年間、需要も高くなり、それぞれに宣伝をやらなくてはいいなんという気持は潜在意識には充分持つていたと思いますよ。

木下 もう一つは、養殖から加工という真珠の流れが業界内で整備されてきて、かなり安定してきているという結果を生み出す要素になっていますね。業界がグレードアップしたんですかね。

田崎 ファッションを支えるものの一つに真珠がなることは間違ひがないと思います。ただ、今まで業界の訴え方が足りなかつたんですね。神戸市にしても、地場産業という時、真珠はやっと出るか出ないかというものが現状です。本当は神戸市自体でも真珠をもつといろんな面で打ち出した方が、神戸の特性を世界的に価値あるものと認められると思うんです。神戸の特性は何かといふとやはり港町ということ、真珠が強力な構成になりうるでしょう。我々の努力が足りなかつたという点が多分にあります。

北京の故宮博物館を見ると、馬の鞍とか帽子とかに真

珠をたくさん使っているんです。真珠をただネックレスや指輪に使うしか考えなかつたり、輸出だけを主体にしてこれが真珠屋の在り方と決めていた我々の考え方を改善する必要が大きいあります。トータルでどんなサービスをすればいいか、どんな使い方をしたら楽しめるか、いかに真珠を商品として一般の人認識させていくか、いろいろな意味でぶつけいかなければ売れない訳ですよ。ただ店に並べているだけでは流通部門として時代遅れです。日本の車が、アメリカやドイツを抜いたのは二

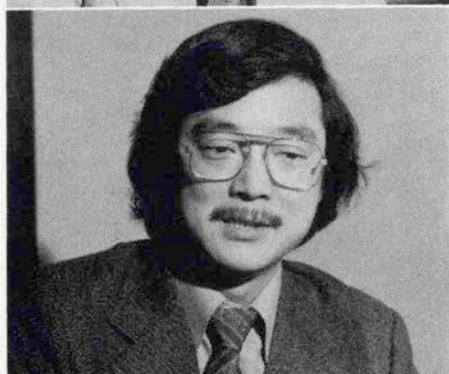
ヶ月にいかにうまく応えたかという点にある訳で、我々も消費者の好みに合わせてどうすればいいか考え、それが利益につながるんだという発想で、これから業界も盛りあがつていかなくては、本当の流通部門のリーダーシップはとれないと思いますね。その土壤というか、背景になるには神戸はうつつけだと思うんです。

高橋 つい先日、神戸真珠親睦会の集まりに、メンバーの一人が、ドイツ人のバイヤーを連れてきたんです。我々はちょっとしたコーナーを設けて、パールシティ神戸のシールやステッカー、傘、Tシャツなどのサンプルを置いていたんです。するとそのお客さんが、「神戸は真

木下
章夫さん

高橋
洋三さん

近澤
真さん



からね。

多彩な催しから新しい方向づけをしたい

— 若い方々の運動で盛りあがつてきているこの時期に、いろいろ催しがあるわけですね。その内容などをお話ししてください。

田崎 パールフェスティバルには多彩な行事を織り込んでいますよ。一日たっぷり真珠業界に関連した人たちで使わせてもらうわけです。

木下 パールフェスティバルは7月12日(月)に博覧会場内国際広場で行われます。朝10時に始まり、分刻みで夜8時30分までリハーサルと本番を兼ね合ひながら行きます。皆、揃いのパールマークを染めぬいたTシャツを着て、ロックでも踊ろうかということなんですね。(笑)

近澤 メインは、ファッショントレンドとしばたはつみシヨーと6月に決定した。パールプリンセスの紹介とディスコタイムという組み合わせを昼と夕の2回やることです。後、午前中に木馬座のぬいぐるみショーがあります。森 子供から大人まで楽しんでいただこうという趣向です。もう一つ取り上げてほしいのはパールデザインコンテストですね。

木下 これは毎年やつていて、世界的な行事になり、海外からも応募が来ています。東京でやつていたのを神戸に持つてきました。6月15日に発表会と授賞式が神戸ポートピアホテルで開かれます。この時に、6月12日、神戸文化ホールで選出されたパールプリンセスも発表することになりますね。

高橋 プリンセスの応募基準が面白いんじゃないですか。木下 18才以上の女性で未婚、既婚、国籍は問いません。上限はなし。(笑) 真珠の似合う人が対象なんです。真珠は若い人が似合うとは限らないですからね。選ばれたパールプリンセスの方には真珠を通した国際親善、さまざまな真珠PRキャンペーの場に活躍していただきます。デザインコンテストの入賞作品は7月から9月まで

珠の街だと、それはもう世界中の宝石屋が皆知っている。むしろ、世界に向かってやつた方がいい。私はドライブでやりたいから、シールをくれ」とシールをたくさん買つて帰られたんですが、日本の方よりも海外の方の方が、もちろん業者の方だから当然といえば当然ですが、「パールシティ神戸」ということを抵抗なく受け入れて、どんどんやつてほしいといわれる訳です。僕自身としては、パールシティ神戸よりむしろパールカントリージャパンの方が外国に対してもいいんじゃないかという気はするんですが。当初業界内でもパールシティ神戸というと、一部に抵抗があるんじゃないかと思つたのは全く見当違ひの危惧であったことを、外人の方から逆に教えられたような形でしたね。今後は、国内だけでなく海外にそういう意味合いのことをやつしていくのが課題になってくると思います。

近澤 こういう運動は1年や2年でどうこうするものじゃないし、とにかく地元から固めていくつ、将来を考えて地道にやつていこうじゃないかということです。

高橋 現在、我々が進めている運動の一つに看板作戦というのがあるんですが、それは、パールシティ神戸という名目でシンボルマークを作り、それを個々の会社のマークとは別に掲げていただきたいとお願いしてまわつてゐる訳です。我々の営業所があるのは、多くが山本通、北野町地区、異人館街と一致する部分が多いんですね。幸い観光客の方もずいぶん増えてきたので、統一のシンボルマークを配すれば、よけい目立つだろうし、全国におけるPRになるんじゃないかという発想です。

また、200以上ある神戸の業者の皆さんに「パールシティ神戸」の宣伝をいわゆる業界広告として新聞に出したり声をかけたところ、現在100社ぐらいが賛同してくれています。その中で改めて神戸の真珠業者の多さを知られ、もっと頑張らねばと感じました。組織だった動きは我々が中心になってやらないと神戸の場合むづかしいです。振興会や輸出組合になると神戸だけじゃないです

ファッショントライブシアターに展示します。

なると思いますので、いろいろご協力お願ひします。

中村 これらのお祭りに終わらすに何か新しい方向づけが生まれるようにならうね。真珠の美しさを多くの人の心に植えつけ「毎日の生活中で生きる真珠」を提案していきたいですね。デザインコンテストでも、従来の「フォーマルな装いに似合う真珠」だけでなく、今年初めて「カジュアルウエアに生かせる真珠」ということに挑戦しています。色と形の多様性を十分駆使したデザインが要求されてくるわけです。

最近の活発な動きを将来につなげていこう——パールシティ神戸の運動と神戸での集

森 振り返ってみて、真珠が日本の代表的産物の一つで
もあり、我々の商売は人間の夢を売り、永遠の美を訴え
ていくという崇高な使命をもつていいわけです。一種の
プライドを持ってやっていくべきだと思います。

あるということ、そしてみんなに夢を与える商品としてのイメージは、昔から評価されていましたことなんですね。そういうことが、今回のようないろいろな行事をますます続けていけるようなきっかけとなつて、将来につながっていくことに期待していきます。

田崎 私も今後ともずっと続くようにしたいと思いますね。だいたいいろいろ企画は出るんですが、経費の問題で困りますが、過去で多くなったことがあります。過去で多くなったことがあります。

近澤 今から行われる大きなイベントには、積極的に参加、協力していきますが、それだけに目をとらわれず、もっと幅広い地道なPR活動を続けていきたいと思っております。今後の提案として、神戸だけじゃなくいろんな地区の若い人たちとつながりをもち、我々と同じようなら動きを各地域でしてもらいたいということで、若手による真珠会議を開きたいという考えもあります。

高橋 来年以降のプロジェクト会議の方向性となると、振興会でもやっていますが、いわゆる長期的なビジョンを業界全体のコンセンサスとして持つ必要があるという考えです。単に業界側からの意見だけでなく、一般の人々がどういうイメージを持っているか、またどういったものを求めているかということを、我々の今後の提案の主要な内容の中に含めていくべきだと考えています。

木下 今回の活動は、親睦会・振興会広報委員会のつながりで、企画、実行していますが、実際に動かしているのは神戸の人がほとんどです。業界全体として継続的に大きな動きができるよう、我々も一生懸命フオローアップしようという気でいます。具体的なことは若い連中から提案してもらい、我々が実行していくということに

まだ、いろいろな問題も整理中ですが、今後、真珠会館をどう使うかを考えていかなければならぬと考えています。先ほど真珠会議の話なども出ました、新しい気運を作つて、他の業界にも呼びかけていきたいです。振興会としても、それなりのバックアップはしますけれどもね。まあ、こういったことを契機にして、業界が景気もついていくことに期待したいですね。